

研究・調査報告書

報告書番号	担当
358	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)	
<p>Alcohol consumption and chronic atrophic gastritis: population-based study among 9,444 older adults from Germany. アルコール消費と慢性萎縮性胃炎：ドイツでの9,444人の高齢者における住民をベースとした研究</p>	
執筆者	
Gao L, Weck MN, Stegmaier C, Rothenbacher D, Brenner H.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Int J Cancer. 2009 Dec 15;125(12):2918-22.	
キーワード	
慢性萎縮性胃炎、飲酒、ヘリコバクターピロリ	
要 旨	
<p>中程度アルコール消費は、慢性萎縮性胃炎 (CAG) と胃癌の重要な危険因子であるヘリコバクター・ピロリ感染の除去を促進すると示唆されている。本研究の目的は、ドイツの高齢者でアルコール消費と CAG との関連を評価することである。Saarland で行われた住民ベースの研究である ESTHER のベースライン検査では、ペプシノーゲン I と II (CAG の診断目的に) およびH.ピロリ抗体の血清学的測定が、50-74 歳の 9,444 人に行われた。中程度つまり現在 (<60 g/週)または生涯 (≤51,375 g、最低四分位) 飲酒者は、非アルコール消費者に比べCAGリスクが有意に低いことが明らかになり、その調整後のオッズ比はそれぞれ 0.71 (0.55-0.90) と 0.73 (0.55-0.96)であった。CAG との負の関連はビールとワインからの中程度アルコール消費で観察され、それは H.ピロリ菌感染を調整するとわずかに弱まった。以上の結果は中程度アルコール消費が CAG と負の関連を示すという仮説を支持するものであり、それは部分的にH.ピロリの除去を促進することを介している。しかし、その関連を説明する他のメカニズムが存在する可能性も示唆された。</p>	